

## フランス国立図書館所蔵の イエズス宣教師による西洋科学漢訳書について

伊藤信博

### 1. はじめに

本稿は、2010年～2012年度科学研究費基盤（C）「パリ国立図書館東洋写本室蔵書を巡る異文化交流の総合的比較研究」（課題番号：22520663）および所属研究科「教育研究プロジェクト」（2009、2010年度）などの助成を受け調査した、フランス国立図書館写本室蔵書の調査報告書である。

また、この報告書は2009年に勉誠出版「アジア遊学」127、『キリシタン文化と日欧交流』所収の拙論「フランス国立図書館所蔵の宣教師による漢訳著書目録について」の目録<sup>1</sup>解説部分や『多元文化』11号所収の拙論「フランス国立図書館所蔵の宣教師による西書漢訳著書について」（名古屋大学、2010年）を修正し、写本室蔵西洋科学漢訳書や『天主降生出像経解』への分析から、西欧文化の中国受容ならびに日本への影響に関する考察を加筆したものである。

フランス国立図書館旧東洋写本室（2010年9月に西欧・東洋写本室が統合され、現在は写本室が正式名称）は、アフリカ、オセアニアを含むアジア諸国の写本・版本を所蔵し、中でも最大のコレクションは中国、日本、韓国の写本・版本である。しかし、その蔵書を日本から調べようとするとかかなり困難が伴う。

漢籍写本・版本は十五万冊以上あるとされるが、ネット上に公開されているのは、その一部に過ぎない。残りは、現地で分類カードまたは写本室内のコンピュータで調べるしか方法がないのである。また、公開されている目録（九千八百点）中に西書漢訳書が含まれるが、この目録はモーリス・クーラン（Maurice Courant）がErnest Leroux社から出版した目録の写しで、手書きの註も含まれる<sup>2</sup>

このモーリス・クーラン編『パリ国立図書館所蔵漢籍解題目録』（以降、『解題目録』と略す）は chinois 1～4423（1902年）、chinois 4414～6689（1910年）、chinois 6690～7491（1912年）と三度に分けて出版され（以降、目録番号の chinois を省き、番号のみを記す）、歴史、地理、政治、哲学、文学、医学、美術、道教、儒教、天主教、仏教（経典の他、中国撰述や僧伝）、プロテスタンチズム、イスラム教、百科全書など様々な分野でフランスが収集した漢籍が記されている。また、アンリ・コルディエ（Henri Cordier）編『17～18世紀に中国において西洋人によって出版された西書漢訳解題目録』が紹介する書物もこの『解題目録』には数多く含まれている<sup>3</sup>

ところで、『解題目録』の 6690～7491 には、「天主教」と題される天主教漢訳書目録があり、重複する題目も含め、八百一点に上る。『解題目録』全体から抽出した宣教師の著作を含めると、宣教師の手による千百点近い漢書および西書漢訳書がこの図書館に所蔵されていることになる。差し引きした三百点は、後述する西欧科学紹介書である。

しかし、『解題目録』に記載がない植物や建築物、風俗などに関する宣教師が記した未調査の書画物が现阶段で二百九十四点ある。1740年代の著作もあり、合計は千四百点を大きく超えるであろう。

## 2. 宣教師が著わした西書漢訳書

解題目録 1～4423、4414～6689 から宣教師による著作を抽出すると、先ず目に付くのは、1601年初版『天主実義』（6820）を著わしたマテオ・リッチ（利瑪竇）である。<sup>4</sup> 同書は彼の主著で、中国人と宣教師との教理を巡る問答書であり、儒教的表現を使い、キリストの教えを簡略説明した漢書である。この書物は満語や朝鮮語、日本語、仏語にも翻訳されている。<sup>5</sup>

写本室所蔵のマテオ・リッチの著作は『天主実義』の他に、『重刻畸人十篇』（6830）、『辯學遺牘』（7084）、『交友論』（3371）、『二十五言』（3376）、『幾何原本』（4855～4856）、『同文算指』（4861～4863）、『測量法義』（4864）、『句股義』（4866）、『渾蓋通憲図説』（4899）、『乾坤体義』（4897）などがある。

天主教に関わる著作は『天主実義』、『重刻畸人十篇』、『辯學遺牘』

で、『交友論』は友情を論じ、『二十五言』は道徳に関する書物で、その他哲学的な著作もある。また『幾何原本』はユークリッド幾何学の漢訳本<sup>6</sup>であり、「三角錘や円錐などの体積」、「正多面体論」について論じる理論書である。同様の西洋数学書には、李之藻とともに訳した『同文算指』がある。同書は1583年にローマで、1584年にはケルンで出版されたマテオ・リッチの師、クリストファー・クラヴィウス著“*Epitome Arithmeticae Practicae*”の漢訳書である。<sup>7</sup>

また『測量法義』、『測量異同』、『句股義』は応用数学の範疇に属する著作である。『測量法義』は測量用の観測機器である象限義による測高・測深・測遠方法を中心に、西洋測量術を紹介する。『測量異同』は西欧と中国の測量の相違を論じ、『句股義』は三角法に関する著作で、『渾蓋通憲図説』は西欧天文暦学の説明書である。さらに、写本室に所蔵はないが、中国語で地名を記した絹地印刷の世界図『坤輿萬國全圖』も彼は記している。<sup>8</sup>

数学の知識や世界地図、地球儀、天体観測機などの西欧文化を紹介し、東洋文化に多くの変化をもたらしたマテオ・リッチは、中国語を話し、また読み書きにも堪能で、「四書」のラテン語訳もおこなっている。そこで彼は、ゼウスを天主と漢訳し、天主は儒教における上帝に等しいとしたのである。

このような西欧科学技術の中国への導入に、ヨハン・アダム・シャル・フォン・ベル（湯若望）やフェルディナント・フェルベースト（南懷仁）も関与している。アダム・シャルは1591年にケルンに生まれ、イエズス会宣教師として、1622年に中国に渡った人物である。『赤道南北両緯星全図』（4912）、『赤道南北両緯星図説』（4913）、『測食畧』（4921）、『渾天儀説』（1324）、『月離表』（4962）、『交食表』（4964～4965）など西欧天文学や天球儀製作、その使用法を論じる著作があり、太陽や月の運動理論、日月食、恒星、惑星運動論、各種図表などを紹介し、中国への導入に努めている。

また、暦法に関する『新法曆引』（4953）、『曆法西傳』（4954）、『明曆鋪註解惑』（4982）なども記し、清代における新曆編纂の手本とな



【図1】写本室蔵『坤輿図説』

った『崇禎曆書』(百三十五卷)を完成させる徐光啓や李之藻らに協力したのである。<sup>9</sup> この努力から、順治三年(1646)には順治帝によって、天文台長官である欽天監監正にも任じられている。フェルディナント・フェルビーストは、1623年にコルトレイクに近いピテムに生まれ、1659年に

中国に渡ったイエズス会宣教師である。『安先生行述』(1024)、『御覽西方要紀』(1882)、『新製儀象図』(4917-IIおよび4918)、『坤輿格致略説』(4922)、『新製靈臺儀象志』(4923-4925)、『不得已辨』(4989)、『欽定新曆測驗紀略』(4992)、『告解原義』(7272)などの著書を写本室は所蔵する。天文の吉凶推算利用を批判した写本室蔵『妄擇辨』(4993)、『妄推吉凶辨』(4995)、『妄占辨』(4998)なども記した彼は、やがてアダム・シャルを補佐し、曆法の改訂に協力したのである。

また、写本室が所蔵する『坤輿図説』(1526)も彼の著作である。1674年に出版された同本の下巻には、第三節で詳しく紹介するジウリオ・アレーニ(艾儒略)の序文ある。彼は1649年に死亡しているため、少なくとも、下巻は彼の死亡以前に書かれた作品であると思われる。

この『坤輿図説』の中には、世界各地の様々な動物や建物も紹介されており、ジウリオ・アレーニが製作した『坤輿全図』(1914)を基に、更に詳細な解説を加えた版本である【図1】。また、このアレーニ製作の地図にも(全八巻、0.65m×1.6m)にも『坤輿図説』と同様の動物が紹介されている【図2】。そして、どちらにも西欧的陰影法の技術が使用されているのである。

西欧最新科学技術の知識を宣教師が中国に持ち込んだことから、東西文化交流が盛んになったことはよく知られているが、この写本室蔵書によりその事実がよく分かる。また、彼らが漢語で著書を記したこ



【図2】写本室蔵『坤輿全図』部分

とや『天主実義』にある儒教的表現、その文言などから、宣教師達が中国文化を深く理解しようと努めていたことも明らかである。

中国文化やその社会に関する知識を蓄積した宣教師達は、本国の修道会へ中国事情の報告をおこない、その蓄積された知識から中国学の発展をやがて西欧で引き起こす。そして、この写本室はその重要な研究拠点となっていたのである。また、上述してきた西欧科学紹介書の多くが江戸時代に日本にも輸入されている事実も注目して然るべきであろう。



【図3】フランス国立図書館地図室蔵彩色『坤輿全図』(写本室番号1924、地理室番号、GEC-5358)、

82.6×54.8cm×2枚、フェルディナント・フェルピースト制作、1674年版。

日本は17世紀初頭からの「鎖国」政策によって、オランダ・中国、朝鮮、琉球以外の諸国との交渉を閉ざし、西洋の学術知識の取得は困難な状況にあったとされる。そして、八代将軍徳川吉宗が実学奨励政策を取り、漢訳洋書の輸入制限を緩めたことにより、自然科学を中心に「洋学」が発展していったとするのが一般的な常識となっている。

吉宗が実践した実学発展に大きく寄与したのは、一つには彼の物産政策が挙げられる。吉宗以前には、薬や砂糖などが大量に輸入され、その代金として、金銀が大量に海外に流出する。そうした輸入を抑え、自給自足を図るため、吉宗は採薬使を全国に派遣し、国内で生産可能な薬物や有用な物産を調査したことで全国的に動植物の関心が高まっていく。

また、享保二十年～元文三年（1735～1738）にかけて、全国の産物調査を吉宗は行う。その結果が『享保・元文諸国物産帳』であり、物産名が方言で記された場合、理解不能との理由から、各藩からの物産調査報告書には、図での説明まで要求し、日本全国における生産物を詳細に把握したのである。

国内調査だけではなく、対馬藩を通し、朝鮮から薬草などを取り寄せ、日本で生産がないか確認まで行い、薬草の栽培を幕府直営の下総薬園で行った。つまり、日本で生産が無かった植物を新たに栽培する試みなのである。寛延元年(1748)刊である田村藍水著『朝鮮人参耕作記』はこのような意図の基に栽培された朝鮮人参の生産記録である。そして、物産政策の一環として、中国から西洋翻訳書も含め、植物学、動物学および多くの農書を輸入したのである。

以上のような理由から、吉宗以降には、動植物に関する様々な種類の本が出版され始める。『諸禽万益集』（初期の養禽書）、『日東魚譜』（始めて出版された魚譜）、『六鯨之図』（鯨やイルカ類の分類、鯨の解体図等）、『勇魚取絵詞』（肥前国の捕鯨）、『琉球産物志』、『蝦夷草木図』など、どれも図説が付く出版物であり、鳥類や蝶類を分類した百科事典的な本なども豊富に刊行されるのである。

このような政策から、中国から輸入された漢訳洋書の中で、西洋の学術知識を学ぶのに重要だったのは、中国で活躍したイエズス会宣教師達が中国において出版した西洋科学書だったのである。

ヨハン・アダム・シャル・フォン・ベル（湯若望）やフェルディナント・フェルビースト（南懷仁）が記した『赤道南北両総星全図』、『赤道南北両総星図説』、『測食畧』、『渾天儀説』、『月離表』、『交食表』など西欧天文学や天球儀製作、『新法曆引』、『曆法西傳』、『明曆鋪註解惑』、『崇禎曆書』（百三十五卷）、『御覽西方要紀』、『新製儀象図』、『坤輿格

致略説』、『新製靈臺儀象志』、『不得已辨』、『欽定新曆測驗紀略』、『告解原義』、『妄擇辨』、『妄推吉凶辨』、『妄占辨』、『坤輿図説』などの書物である。

ところで、宝永五年（1708）に屋久島に潜入し、捕らえられたイタリア人宣教師であるジョバンニ＝バティスタ・シドッチを、吉宗以前、六代、七代将軍に補佐として仕えた新井白石が翌年に江戸で尋問している。

その時の尋問の経緯や聴取したキリスト教関連記事を収めるのが『西洋記聞』であり、その他『采覧異言』や享和二年（1802）頃成立した『訂正増訳 采覧異言』も西洋翻訳漢書などを多数参照した一種の地理書である。同年頃の写本には、日本二十六聖人記念館蔵の『坤輿外紀七奇圖説』（「御法度書写」IV - B16）があり、上述した『坤輿図説』の写本である。

この『采覧異言』、『訂正増訳 采覧異言』には、西洋科学書の参考文献がかなり記されている。地理書に関しては、マテオ・リッチの『坤輿万国全図』を増補した世界地理書である『職方外記』（ジウリオ・アレニ）、『坤輿図説』、『西方要紀』、『坤輿外記』（共にフェルディナント・フェルビースト著）などがあり、写本室も所蔵する書物である。

尋問に対して、新井白石が参考書を探したことは、彼の著作である『折りたく柴の記』にも記されており、地理書も含め、西洋科学漢書は秘密裏に一部の知識人が所有していたとも考えられる。販売は禁止されていても、写本などを所持することは禁止されていなかったからである。

少なくとも『坤輿萬國全圖』の翻刻は正保年間（1644-47）に既に始まっていたことが知られ、現在その写本は、東北大学と京都大学が所蔵しているのである。例えば、インディアナ大学リリー図書館蔵『華夷通商考』は1695年に京都で出版された地理書であるが、上巻には中国地誌、下巻には朝鮮・琉球・台湾、さらに東南アジア・南アジア・西洋諸国などに関して正確に記すのも、そのような知識が日本にすでにあった証



【図4】写本室蔵

抛であろう。

つまり、吉宗以降に、正式に漢訳洋書の輸入制限が緩められたため、多くの書物が日本に輸入され、西洋科学受容が進んだことに間違いはないが、それ以前に、知識としての受容があったことは歴史的事実と考えられるのである。

なお、写本室は文政十一年（1828年）のシーボルト事件に関与し、投獄され、翌年に獄死した書物奉行兼天文方筆頭の高橋景保が、オランダ商船艦長に贈与したフェルディナント・フェルビースト制作『坤輿全図』の写本（1923B、図4）を所有している。タイトルはフェルビースト制作『坤輿図説』となっているが、上述した図3の『坤輿全図』と同様の動物が描かれており、『坤輿図説』に描かれる動物とは相違している。上部の文章の右下に「文政九年四月および高橋景保」のサインと印が見え、オランダ船艦長の J. W. Sturler に送ったと記され、左には、W. H. Medhurx による英語の翻訳が記されている。

### 3. 『天主降生出像経解』と陰影法について

解題目録の 6690～7491 には、「天主教」と表題が付いている。しかし、『江蘇省』（6814-VIII）などの地理書、キリスト教と仏教を比較した楊廷筠『鴉鷺説』・『鴉鷺不並鳴説』（6691-II）、仏教、儒教とキリスト教の相違点または共通点を考察する徐光啓『荅郷人書』（6875-II）、ジウリオ・アレーニ（艾儒略）『三山論学紀』（7120）、張星曜『天儒同異考』および『天教合儒』、『天教補儒』<sup>10</sup>（いずれも 7171）も含まれている。

なお、ジウリオ・アレーニは、1582年にイタリアのブレシアで生まれ、1613年に中国に入ったイエズス会宣教師である。『大西西泰利先生行蹟』（1014）、『西学凡』（3379）、『五十言余』（3406）、『性学初述』（3409）、『幾何要法』（4869）、『天主降生言行紀略』（6709）、『萬日略経説』（6709-I）、『聖夢歌』（6884）、『天主聖教四字经文』（6887）、『口鐸日抄』（7114）、『滌罪正規』（7259）、『滌罪正規略』（7267）などの著書を写本室は所蔵している。

科学や数学書の他は殆どがキリスト教関連著書であるが、『口鐸日抄』は解題目録が「文人に対する問答集」と注記するように、九十名



余の中国人文人と著者が互いに興味のあることを話しあった内容が記されている。ローマと福建の時差、自然現象、人間性、風水思想、一夫多妻制、死後の世界、西欧の四元素と中国の五行などである。マテオ・リッチのみならず、ジウリオ・アレーニの著書を通して、西欧における中国文化や思想の受容の始まりが示されていると言えよう。

ところで、ジウリオ・アレーニが序文(1637年)を記す『天主降生出像経解』(6750)はキリストの生涯を画と詞書で紹介する作品で、エルサレムの地図、本文二十八葉と五十七画からなっている(重複画も含めると五十八画)。本の題は『天主降生言行紀像』、序は『天主降生出像経解』となっている。序文の最後にはイエズス会の印であるIHS (Iesus Hominum Salvator)があり、



【図5】写本室蔵『天主降生出像経解』部分

「天主降生後一千六百三十七年、大明崇禎丁丑歳二月既望」と刊行年が、そして「晋江景教堂繡梓」と刊行場所が示されている【図5】。福建・清景教会で作成され、アーセナル図書館が所蔵していた書物と『解題目録』は記す。

『天主降生出像経解』に関しては、すでに、『多元文化』11号所収の拙論「フランス国立図書館所蔵の宣教師による西書漢訳著書について」(名古屋大学、2010年)において、分析を行ったが、その論文では、ハーバード大学ホートンライブラリー所蔵本に関する分析が行われていなかったため、再度論じたく思う

『天主降生出像経解』はその他に6751~6756まで、六種類の類似本を写本室が所蔵する。6751、紙質が悪く、序文を欠き、福建・清景教会で作成、イエズス会所蔵。6752は6750に比べて印刷の質が悪く、序文とエルサレムの地図を欠き、パリ外国宣教会が所蔵。6753は6752と同作品、6754は6750の縮小版で、序文とエルサレムの地図を欠き、粗雑な制作と『解題目録』は記し、6755についても6754と同作品で、紙質も同様とする。

ところで、下記の比較〔表 1〕で見る限り、6753 は 6752 と画順も同じであることから、同作品であろう。しかし、紙質の違い、印刷の濃淡、板行を続けた際の版木に生じた傷が画に認められるなど、比較すると、6753 の画の傷がより広がっていることや新しい傷が増えていることから、6753 は 6752 より後の出版であろう。また、6754 と 6755 は保存状態が悪く、マイクロフィルムでの閲覧により、紙質調査ができなかったが、どちらも 6750 とは画順が多少相違し、同作品とは言い難く、画数も少ない。

下記〔表 1〕で全作品を対照すると、6750 の画の傷は他作品の画にも必ずあり、より増えたり、大きくなったりしている。したがって、6750 以下全ての作品が同じ版木での出版である事実が分かる。なお、6751 に関しては、紙質は悪いが、6750 に一番近い作品である。しかし、題は『天主降生聖像』と記されている。

6756 は艾儒略の序が三葉、本文二十六葉で、全二十九葉、五十一画の作品であり、写本室版画部門 (0e166) 所蔵で、刊行年の記載がない。そして、『解題目録』は 6754 と同作品とするが、〔表 1〕での対照で明らかのように、6754 とは画の配置が相違し、同作品ではない。また、ハーバード大学ホートンライブラリーが、題『天主降生言行紀像』、序『天主降生出像經解』、全二十九葉、五十一画の作品を所蔵する (No:006815826)。調査したところ、画順は 6755 と同順であった (〔表 1〕参照)。また制作年代は 1640 年とされている。

上述したアンリ・コルディエ編「西書漢訳解題目録」は、『天主降生出像經解』(6750) について、「(前略) Les planches, gravées en Chine, de ce livre sont tirées de l'ouvrage sur les Évangiles du P. Jérôme Nadal, S. J. (né à Majourque en 1507; † à Rome le 3 avril 1580); elles sont gravées en Chine d'après les planches de Wierx (Jean, Antoine et Jérôme).」<sup>11</sup>と記し、ジェローム・ナダルが描いた「絵入り福音書」を元に中国で彫られたと説明する。

ジェローム・ナダル (1507~1580 年) は、イエズス会の宣教師である。福音者を描き、靈性修業 (靈操) 用に制作した「絵入りの福音書」は彼の死後、1593 年に “*Evangelicae Historiae Imagines*” が、1595 年にその拡大版 “*Adnotationes et Meditationes in Evangelia*” がア

ントワープでそれぞれ出版されている。

また、『天主降生出像経解』序文は「(前略)吾西土有 天主降生巔末四部 當代四聖所記・者復有銅板細鏤吾 主降生聖蹟之圖數百余幅余不敏嘗敬譯降生事理於言行紀中 茲復倣西刻經像圖繪其要端 欲人覽之如親炙吾主見其所言所行之無二也 中有繪出於言行紀所未載者蓋更詳聖傳中別記悉繪之以見其全也 至於形容無形之物俾如目覩 則繪法所窮 是以或擬其德而・之 或取其曩所顯示者而像之如天主罷德肋與斯彼利多三多本 為純神超出萬相 然繪罷德肋借高年尊長之形者・其無始無終至尊無對之德也 繪斯彼利多三多取鳩形者蓋吾主耶穌受洗於若翰時 天主聖神嘗借鳩形(鳩為百最善又最相和愛故籍此以指聖神至善而至愛人之意)顯示其頂故也 若天神亦為無形之靈 第其德不衰不老 則以少年容貌擬之 神速如飛 則以肩生兩翅擬之 清潔無染則以手持花枝擬之 凡如此類義各有歸總 非・加粉飾以為觀美而已顧天主無窮聖蹟 豈筆墨所能繪其萬一 而茲數端又不過依中匠刻法所及翻刻西經中十分之一也(後略)」と記し、キリストの生涯を記した書物が西欧には多く、降臨の銅版画が数百枚あることやキリストの生涯を『天主降生言行紀略』(6709)として、艾儒略が訳したこと、西欧で制作された「絵入り福音書」に倣って中国人が翻刻したことなどを記している。

この「絵入り福音書」は画法として、陰影法が色濃く出ているが、『天主降生出像経解』は「絵入り福音書」を忠実に模写しているとはいえ、陰影法が駆使されてはいない。序文に版木は中国人が彫ったと記載があることから、制作年代の1637年頃は中国人絵師には陰影法での表現が難しかったと言える。

ところで、顧起元著『客座贅語』(1617年)は、「(前略)利瑪竇西洋歐羅巴國人也 面皙 刺鬚 深目而睛・如貓 通中國語 來南京居正陽門西營中。自言其國以崇奉天主為道 天主者 制匠天地萬物者也 所畫天主 乃一小兒 一婦人抱之 曰天母 畫以銅板為幀 而塗五采於上 其貌如生 身與臂手儼然隱起幀上 臉之凹凸處 正視與生人不殊 人間畫何以致詞 答曰 中國畫但畫陽 不畫陰 故看之人面軀正平 無凹凸相(後略)」とマテオ・リッチに関する話を記す。<sup>12</sup>

簡訳すると、「マテオ・リッチは銅製の枠に収まった天主の像と幼児を抱えたマリア像を所蔵している。五色の色で描かれており、生き生きとしている。陰影があり、はっきりとした顔立ちで描かれている。そのように生气に溢れた画が描かれる技術を問われ、中国人は陰影を描かないから、画が平面的であり、凹凸がないと答えた。」となる。このことから、陰影法が宣教師によって中国に持ち込まれたことは明らかである。

また、マテオ・リッチが程大約に贈ったとされる、4枚の銅板宗教画が『程氏墨苑』に中国人の手によって翻刻され、収められており、それらの木版画にも陰影法の痕跡は認められないのである。この『程氏墨苑』

は贈られた程大約が編集し、丁雲鵬、廷羽等らの画を・ 麟、・ 應泰、・ 應道、・ 一彬らが翻刻し、制作したものとされ、萬・ 三十三年(1605)に出版された。『中國古代版畫叢刊二編』、上海古籍出版社、1992年、「程氏墨苑跋」、三頁には、以下のことが記されている。

「(前略)、刊有西洋宗教版畫三幅、一、「信而歩海、疑而即沉」、二、「二徒聞實、即捨空虛」、三、「淫色穢氣、自速天火」。以後所印本《程氏墨苑》收四幅、第四幅為「天主像」、且附以羅馬註音、解釋圖畫的內容。這四幅畫為日本神學院據西洋銅版畫原稿及壁畫刻成、後為意大利傳教士利瑪竇所得、經祝世祿介紹、於南京持贈程大約、程氏命刻工用木刻方法方刻、編入《墨苑》。西洋銅版畫刊之於中國木版畫、此書實為首創、是研究中西美術交流之重要資料。」(【図6】はその一部)

ところで、6750以下全ての異本の画に同様の傷がある事実から、同じ版木を使用し板行を繰り返していた可能性を指摘したが、6750の画に傷があり、1637年に制作されたこと、ジウリオ・アレニの中国へ入国が1613年であることに鑑みると、1620～30年前後にはこの作品が既に板行されていた可能性もある。



【図6】『墨苑編貴』巻六下 三十八表

そして、上述したフェルディナント・フェルビーストが 1674 年に出版した『坤輿圖説』（1526）の挿絵の動物画や 1649 年に死亡したジウリオ・アレーニの『坤輿全圖』（1914）に描かれる動物画には陰影法が使用され、〔表 1〕より、1640 年製作とされるハーバード本以降に製作されたと考えられる写本室版画部門（0e166）所蔵（6756）『天主降生出像経解』に微かな陰影法での図像制作が認められることから、17 世紀中葉には陰影法の技術が中国人絵師に行き渡ったと考えられるのである。

一方、『解題目録』4414～6689 にある 5501～5503 の解説は、“Plantes de la Chine dessinées et peints par des missionnaires, gravées et imprimées en couleurs par les missionnaires Jésuites” と記す。宣教師が中国の植物を描き、彩色し、イエズス会宣教師が彫り、多色刷りし、中国で出版したとするのである。5501 は版画部門蔵（0e137）で、V.1 は百三十二枚、V.2 は九十五枚、V.3 は六百枚の植物画から構成され、鑑賞用植物だけでなく、葉草、野菜や果物も含め、陰影法を使用した描き方がなされている。制作年代は不明であるが、十七世紀中葉以降の作品には違いないであろう【図 7】。

したがって、中国の植物画にも陰影法の影響が及んだ可能性もある。中国では宮廷画院の様式を踏まえた野菜や果物、また鳥や虫等を描く作品が数多くあり、北宋以来の伝統となっている。一般に「蔬果図」、「雑画」、「花卉」と呼び、日常卑近な題材を中心とする。宮内庁三の丸尚蔵館蔵伝牧谿「客来一味・即庵日飫図」（双幅）は南宋時代で大根、明代の画家黄道周も「墨菜図」で、大根、人参を描いている。

この伝統は日本にも及び、十六世紀には、ボストン美術館蔵是庵「瓜に虫図」や雪村「蕪図」があり、十七世紀には、中国画をよく写した狩野探幽や狩野安信などが筍、大根、茄子、葡萄、瓜、蕪、南瓜、蓮根、甘茶蔓、胡麻などを描いている。このことから、写生技術の取得も含め、陰影法により植物画を描く技法が中国から日本にも及んだ可能性も否定できないのであ



【図 7】写本室蔵 植物画

る。

日本における植物画への陰影法の影響は享保五年（1720）の漢訳洋書輸入解禁以降と一般にはされている。しかし、室町時代後半に宣教師が陰影法を持ち込んだ可能性や漢訳洋書輸入解禁以前の中国絵画の影響も含め、植物画に関する陰影法の日本での受容時期を改めて考察する必要があるであろう。

#### 4. おわりに

フランス国立図書館写本室蔵書をより多くの日本人研究者に紹介したいと調査を始めて既に十年になる。この膨大な蔵書を少しでも紹介できたらと常に願っている。

また、この写本室蔵の他の絵入り本をさらに詳細に検討し、陰影法による動植物画の技法の日本への導入時期を計れたらとも思っている。『坤輿全図』などは現在九州大学なども写本を所蔵しているが、この地図写本を中心に検討し、少なくとも、十七世紀後半には、日本にこの画に描かれる陰影法の技術が入った可能性を探っていきたいと考えている。

#### 注

- 1 拙論「フランス国立図書館所蔵の宣教師による漢訳著書目録について」、「アジア遊学」127、『キリシタン文化と日欧交流』、212～223頁、勉誠出版、2009年、および「パリ国立図書館東洋写本室資料古書目録を通じた異文化交流の諸相」『言語文化論集』第30巻、第二号、88～95頁、名古屋大学、2009年を参照されたい。
- 2 朝鮮漢籍や和本、和本漢籍は、当時手書き目録または分類カードによって調査するしかなく、筆者が全て目録化した。前掲書『言語文化論集』（註1）69～87頁、2009年。現在は写本室内のコンピュータで検索可能である。なお、モーリス・クーラン編『パリ国立図書館所蔵漢籍解題目録』本篇（1900～1912年刊）が1993年に、補遺篇2が1994年に霞ヶ関出版から復刻版として出版されている。
- 3 *L' imprimerie Sino-Européenne en Chine. Bibliographie des ouvrages publiés en Chine par les Européens au XVIIème et au XVIIIème siècle,*

ed. Ernest Leroux. Paris 1901

- 4 1552年、イタリアのマチェラータ生まれ。中国には1583年に入り、1610年北京で死去。
- 5 前掲書（註3）39頁。
- 6 マテオ・リッチが口訳、徐光啓が漢語にし、1607年に前半六巻を出版。
- 7 前掲書（註3）40頁。
- 8 前掲書（註3）41頁、243-19。『萬國全圖』の解説は、マテオ・リッチが中国の習慣に従い、中国を地図の中心に置き、実体画法も取り入れず、他の国を小さく、中国を大きく描く努力をしたと記す。
- 9 楊廷筠（1557～1627年）は、徐光啓、李之藻とともに中国天主教の「三柱石」。徐光啓（1562～1633年）は、暦数学者で、1603年に洗礼。マテオ・リッチの口授を翻訳・筆記・公刊。日本に多大な影響を与える農書『農政全書』の著者。李之藻（1565～1630年）は杭州府在住の官吏。『天学初函』の著者。『天学初函』は理編と器編からなり、理編はキリスト教関係の書物を集めた書物。楊廷筠、徐光啓や李之藻らの著書も写本室は、数多く所蔵。
- 10 張星曜（1633～1715年）。写本室は、数多くの著書を所蔵。
- 11 前掲書（註3）1～2頁。
- 12 『北京図書館古籍珍本叢刊』66、巻六、二一三、728頁上段16一下段3、書目文獻出版社、1988年。

〔表1〕「天主降生画像経解」比較表

| 天主降生画像経解<br>タイトル | 6750   |     | 6751   |     | 6752   |     | 6753   |     | 6754   |     | 6755   |     | 6756   |     | ルード・カ(1640年) |     | ジ・ロム・ナ・ナゲル(1593年版) |     | ジ・ロム・ナ・ナゲル(1595年版) |     |        |
|------------------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------------|-----|--------------------|-----|--------------------|-----|--------|
|                  | 絵<br>順 | キズ有 | 絵<br>順 | キズ有 | 絵<br>順 | キズ有 | 絵<br>順 | キズ有 | 絵<br>順 | キズ有 | 絵<br>順 | キズ有 | 絵<br>順 | キズ有 | 絵<br>順       | キズ有 | 絵<br>順             | キズ有 | 絵<br>順             | キズ有 | 絵<br>順 |
| 天主降生聖像           | 1      | ○   | 2      | ○   | 1      | ○   | 1      | ○   | 1      | ○   | 2      | ○   | 1      | ○   | 2            | ○   |                    |     |                    |     |        |
| 天主降生時図           | 2      |     | 1      |     | 2      |     | 2      |     | 2      |     | 1      |     | 2      |     | 1            |     |                    |     |                    |     |        |
| 聖若翰先天主面孕         | 3      |     | 3      |     | 3      |     | 3      |     | 3      |     | 3      |     | 3      |     | 3            |     |                    |     |                    |     | 135    |
| 聖若翰先天主面孕         | 4      |     | 4      |     | 4      |     | 4      |     | 4      |     | 4      |     | 4      |     | 4            |     |                    |     |                    |     |        |
| 聖母額上天主降生之報       | 5      |     | 5      |     | 5      |     | 5      |     | 5      |     | 5      |     | 5      |     | 5            |     |                    |     |                    |     | 107    |
| 聖母性麗依撒伯爾         | 6      |     | 6      |     | 6      |     | 6      |     | 6      |     | 6      |     | 6      |     | 6            |     |                    |     |                    |     | 149    |
| 天主耶穌降誕           | 7      |     | 7      |     | 7      |     | 7      |     | 7      |     | 7      |     | 7      |     | 7            |     |                    |     |                    |     | 5      |
| 遵古禮命名            | 8      |     | 8      |     | 8      |     | 8      |     | 8      |     | 8      |     | 8      |     | 8            |     |                    |     |                    |     | 5      |
| 三王來朝叩膝           | 9      |     | 9      |     | 9      |     | 9      |     | 9      |     | 9      |     | 9      |     | 9            |     |                    |     |                    |     | 7      |
| 聖母獻耶穌于聖殿         | 10     | ○   | 10     | ○   | 10     | ○   | 10     | ○   | 10     | ○   | 10     | ○   | 10     | ○   | 10           | ○   |                    |     |                    |     | 9      |
| 耶穌十二歲講道          | 11     |     | 11     |     | 11     |     | 11     |     | 11     |     | 11     |     | 11     |     | 11           |     |                    |     |                    |     | 20     |
| 耶穌四旬齋退魔誘         | 12     |     | 12     |     | 12     |     | 12     |     | 12     |     | 12     |     | 12     |     | 12           |     |                    |     |                    |     | 8      |
| 大聖若翰降誕耶穌爲天主      | 13     |     | 13     |     | 13     |     | 13     |     | 13     |     | 13     |     | 13     |     | 13           |     |                    |     |                    |     | 20     |
| 婚筵示異             | 14     |     | 14     |     | 14     |     | 14     |     | 14     |     | 14     |     | 14     |     | 14           |     |                    |     |                    |     | 8      |
| 淨節成聖殿            | 15     |     | 15     |     | 15     |     | 15     |     | 15     |     | 15     |     | 15     |     | 15           |     |                    |     |                    |     | 10     |
| 西加波水化炭           | 16     |     | 16     |     | 16     |     | 16     |     | 16     |     | 16     |     | 16     |     | 16           |     |                    |     |                    |     | 12     |
| 救世濟羅家母得勝         | 17     |     | 17     |     | 17     |     | 17     |     | 17     |     | 17     |     | 17     |     | 17           |     |                    |     |                    |     | 25     |
| 濃節止風             | 18     |     | 18     |     | 18     |     | 18     |     | 18     |     | 18     |     | 18     |     | 18           |     |                    |     |                    |     | 4      |
| 起難証敵             | 19     |     | 19     |     | 19     |     | 19     |     | 19     |     | 19     |     | 19     |     | 19           |     |                    |     |                    |     | 11     |
| 起三十八年之難          | 20     |     | 20     |     | 20     |     | 20     |     | 20     |     | 20     |     | 20     |     | 20           |     |                    |     |                    |     | 14     |
| 山中聖訓             | 21     |     | 21     |     | 21     |     | 21     |     | 21     |     | 21     |     | 21     |     | 21           |     |                    |     |                    |     | 14     |





|            |    |    |    |    |    |    |    |    |    |             |          |
|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------------|----------|
| 耶穌被釘十字架    | 49 |    | 48 | 44 | 44 | 45 | 45 | 45 | 45 | 130         | 103      |
| 耶穌聖跡地獄     | 50 | 49 |    |    |    |    |    |    |    | 131         | 104      |
| 文武二王降葬耶穌   | 51 | 50 |    |    |    |    |    |    |    | 132, 133 ※6 | 105, 106 |
| 耶穌復活       | 52 | 51 | 46 | 46 | 46 | 46 | 46 | 46 | 46 | 134         | 108      |
| 耶穌復活臨聖母    | 53 | 52 |    |    |    |    |    |    |    | 135         | 109      |
| 耶穌降昇天      | 54 | 53 | 47 | 47 | 47 | 47 | 47 | 47 | 47 | 147         | 125      |
| 耶穌升天       | 55 | 54 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | 148         | 126      |
| 聖神降臨       | 56 | 55 | 49 | 49 | 49 | 49 | 49 | 49 | 49 | 149         | 127      |
| 聖母卒葬三日復活昇天 | 57 | 56 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 152         | 152      |
| 聖母端冕后神聖之上  | 58 | 57 | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 | 153 ※7      | 153      |

※1 部分的にまたは全体的に板を作り直した可能性有。

※2 相違多し。

※3 左右の逆転有。

※4 6750 の 16 は、35, 36 の二枚の絵から一枚の絵として成立。

※5 上部に相違有。

※6 6750 の 51 は、132, 133 の二枚の絵から一枚の絵として成立。

※7 下部に相違有。

※注 6756 の 15, 16, 17 は撮影法使用の可能性あり。

#### 【図版の出典】

図六以外は全てフランス国立図書館写本室蔵書である。図六は『中國古代版畫叢刊二編』、上海古籍出版社、1992年、「程氏墨苑跋」、「墨苑緝貴」卷六下 三十八表から転載した。